

和歌山県日韓バドミントン交流事業に参加して

熊野高等学校看護科教諭 バドミントン部顧問 瓜田優香

公益財団法人日本体育協会・和歌山県体育協会が主催となり、大韓民国蔚山広域市（うるさんこういきし）とバドミントン競技での交流を実施することで友好親善を図り、今後も継続した振興ができるよう相互関係を深めることを目的として行われたスポーツ庁国庫補助事業があり、私はメディカルサポーターとして、平成28年7月15～18日の3泊4日でチームを引率させて頂きました。

そこで私は、交流試合などを通じて、ジュニア層の指導方法を学ぶと同時に、引率生徒の身体面・精神面のサポートを行い、選手が最大限のパフォーマンスを発揮できるようにコンディションを整える役割がありました。和歌山県からは小学生5名・中学生2名・高校生9名の16名の選手が選出されており、年齢はもちろんのこと、性別や発達段階も異なる中で、いかに選手の状態を把握していくのか考えていく必要がありました。

初日の練習開始時には選手達の緊張の面持ちは強く、3日間の練習内容に対する期待や不安の表情が見受けられました。しかし、コートの中に入りシャトルを打ち始めると、その不安な表情は薄れ、一生懸命練習に取り組む姿勢に変わっていききました。言語によるコミュニケーションがままならない状況もあり、特に小学生は首をかしげる場面も多く見られましたが、蔚山広域市の指導者さんの熱心な関わりにより、ジェスチャーで意味を感じ取りながら、前向きに練習に取り組んでいました。ゲーム練習となると、お互い闘志をむき出しにして、一生懸命シャトルを追いかけていました。しかし、練習が終了すると、いつも韓国らしい食事を提供してくれ、選手団も異文化に触れ、一時の癒しを感じながら時を過ごしました。

最初は長く感じた3泊4日もあっという間に過ぎてしまいました。大きな事故やトラブルもなく、選手達はよく頑張ってくれたと思います。しかし、この合宿で終わりとするのではなく、県の代表としてこの事業に参加できた責任を各自が忘れることなく、それぞれの大会などで活躍していつてくれることを願っています。

私はこの事業に参加させて頂いて、技術面の学びはもちろんのこと、蔚山広域市バドミントン協会の方々の人としての温かさを感じさせて頂きました。私自身もこの事業に参加させて頂いた感謝を忘れることなく、日々の教育活動に活かしていきたいと感じています。

蔚山広域市のバドミントン協会の方々から心から感謝しています。本当にありがとうございました。